

日本アルプスを世界に紹介した登山家宣教師

ウォルター・ウェストン

イギリス 出身

〈ウェストンが活躍した時代〉1861〈文久1〉年～1940〈昭和15〉年 享年78歳

江戸 /		明治										大正 /		昭和												
文久1	明治18	21	22	～	27	35～38	43	44	～	大正4	昭和15															
にイギリスのダビー	校を卒業する。	ケレンボリツジ大	着任する。	宣教師として熊本に	持本よつうに	もつよつうに	牧師となる。	神戸の外国教会の	のめ、十数峰に	士、山阿蘇山を	第一回在日中に、	に長子と前常念岳	ら三子息と前常念岳	宅三子息と前常念岳	堀金由案内原啓村	ハミル、山、村長と	の岳諸峰に登る。	第二回在日中に、	拳会英中、日本山岳	主英中、日本山岳	南・山に登る。	ス・の十峰に北に	第三回在日中に、	い、後の山を去る。	最上高地に滞在して、	なる。七十八歳で亡く



日本の近代登山の先駆けとなったウェストン

イギリスで生まれたウェストンは、25歳頃からアルプス山脈（スイス）で本格的な登山を始め、マッターホルンなどにも登頂した。その後、3度にわたり日本を訪れ、宣教師活動の傍ら、精力的に登山活動を行った。

ウェストンは、日本アルプスや富士山などへの登山を楽しんだだけでなく、その著書で、日本の山々の美しさや日本の風習、そこに暮らす日本人の温かさなどを海外に紹介したのである。

また、日本山岳会の設立を提唱するなど、日本近代登山史上きわめて重要な役割を担い、日本政府からも勲章が贈られている。

常念岳と安曇野の人々の温かさを世界で紹介したウェストン

ウェストンは登山家として日本各地の名峰を制覇し、日本アルプスの魅力を、著書『日本アルプス～登山と探検～』で世界に紹介した。

その著書で、「常念岳の複雑な三角形ほど、見る者に印象を与える峰はない」として、常念岳も紹介されている。

また、ウェストンは堀金岩原地区の山口義人村長宅に宿泊し、そこでもてなしの温かさや、常念岳登山の際にウェストンをサポートした3人の猟師が、オオサンショウウオを捕まえて料理してくれたり、常念坊の伝説について教えてくれたりしたエピソードを、感動も交えながら書き記している。



須砂渡溪谷のウェストン像



ウェストンが宿泊した山口家



常念岳からの大パノラマに心が揺さぶられたウェストン

…翌朝の日の出前、暁の灰色の雲が徐々に消え去るとき、素晴らしいパノラマがその姿を現した。私たちの野営の真西に当たって、中間の谷間の上に槍ヶ岳の尖った一つ岩の頂上が聳え、その南方の凹凸のある痩せ尾根は穂高の切り立つ山稜や峻峰に続いていた。東に目を向けると、遙かに松本平の土が見渡され、その彼方の丘陵まで見えた。それらの中で一番目をひくものは、噴火山浅間で、煙と蒸気の交じった灰色の柱が銀色の渦巻となって空に舞い上がっていた。南東には美しい雲を戴いた富士の火口丘が見え、それを見ると私たちはその麓のすぐ近くに太平洋の磯波が打ち寄せていることを想い出した。…

「ウェストンの常念登山記」より



常念岳から望む槍ヶ岳